

静岡がんセンター公開講座2020「がんと感染症の最新情報」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第3回動画配信(事前登録制)がこのほど行われました。第3回は小野裕之副院長兼内視鏡科部長が「ピロリ菌と胃がん」、新里馨腫瘍精神科部長が「新型コロナ時代の心のケア」と題し、それぞれインターネットを通じて講演しました。その概要をまとめました。

(企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局)

がんと感染症の最新情報

主催/静岡新聞社・静岡放送

共催/県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館

特別協賛/スルガ銀行

新型コロナ時代の心のケア

今年には新型コロナウィルスの感染拡大に翻弄された一年でした。年明けのコロナショック期から現在のウイズコロナ期に移行したこの1年足らずで、生活様式や常識、労働観、経済観念が全世界で覆されました。

コロナに翻弄されて

振り返れば、春の急性ストレス反応期には、自殺の増加、困惑、怒りなどの感情的な混乱や疲労感が多くの方に広まりました。労働環境の変化や雇用不安、ステイホームなどから家庭内暴力、不安につけこむ高額商法、医療者とその家族への差別的言動や中傷も見られました。

多発するコロナ疲れ

これら一連の中で特徴的なのは、人間関係による摩擦です。まず適応移行期の「自粛ポリス」。平時は良識ある人が、有事の際は自他共に厳しく、違反者を見つけては攻撃してしま



県立静岡がんセンター腫瘍精神科部長

しんさと 新里 馨氏

1991年浜松医大卒。2015年まで依存症専門病院を拠点に精神保健指定医として精神科救急病院や医療監察法審判医、工場産業医などの経験を経、16年から静岡がんセンター腫瘍精神科医長、17年から現職。1964年鹿児島県生まれ。

の移行期が始まりました。感染拡大の不安を抱えつつ、経済的な限界感から国は「GOTOトラベル・イート」等の施策を出してしま

に、こういった現象が起きていると言えます。有事における人々の心理的な変化やケアを知ることは大切です。そこで紹介したいのが、世界保健機構が提唱する心理的応急処置「サイコソカルファーストエイド」です。災害や紛争

ストレスを適切に管理

今後、今後も続くコロナ下のストレス管理法も紹介しましょう。まず感染症に対して正しく理解し、適正に慎重な行動を取り、情報に惑わされないことも大切です。そして心身にも休息を。電話やネットなど、会えなくても家族・友人とのコミュニケーションは意識したいものです。

ピロリ菌と胃がん

除菌による弊害も

すでにご存じかもしれませんが、胃の中にいるピロリ菌に、発がん性があることが分かっています。近年、胃がんは減少傾向という話を聞いたことがある



県立静岡がんセンター副院長兼内視鏡科部長

おの ひろゆき 小野 裕之氏

1987年札幌医大医学部卒。同大附属病院第4内科入局、国立がんセンター中央病院内視鏡部を経て2002年から静岡がんセンター内視鏡科部長、12年から現職。日本消化器内視鏡学会指導医、日本内科学会認定医など。1962年、北海道生まれ。

ただ、その一方で問題点もあります。除菌をすると胃炎が良くなって、がんがあるにもかかわらず、病巣を発見しづらくなるケースが出てくるのです。除菌による弊害があることも覚えていてください。

初期なら内視鏡治療

早期胃がんは無症状であることが多いようです。進行がんの場合は痛みや体重減少などの症状が現れますが、それでも半数は無症状です。症状がないからといって過信は禁物です。胃がんは進行して転移を起こすと根治が困難です。初期に見つかれば、後遺症がほとんどない状況で治せます。50歳以上の人は、除菌より先に検診を受けてください。軽視して放置していた間に胃がんになっていたという事例も多いからです。

手術でロボットが活躍

近年では、手術支援ロボット「ダヴィンチ」が脚光を浴びています。モニターを見ながら外科医がロボットの手を動かすのですが、腹腔鏡下手術よりも精度が高い。難しい病変や精細な処置が必要なものに関しては、ダヴィンチが非常に優れています。

の患者が少ないという報告もあります。ピロリ菌に感染していることで、免疫を調節する機能が働いているのではと予想されます。ピロリ菌は絶対悪ではないのかもしれませんが、ピロリ菌保持者が除菌をして「もう大丈夫、胃がんにはならない」と安心する人もいますが、それは誤解です。胃がんになる可能性が下がるだけで、ゼロにはなりません。

で、ぜひ受けましょう。1回の受診でも、胃がんや大腸がんなどのリスクは減らせます。胃がんは初期であれば、内視鏡で治療が行えます。外科切除と比べて、後遺症がほとんどないのが最大の利点です。ただ、胃の外の治療できないので、転移があるがんには不向きです。当院での手術方法は口から胃カメラを入れて、ITナイフ(内視鏡手術用電気メス)で患部を

す。当院における胃がんのダヴィンチ手術件数は、日本で2番目に多い実績です。ちなみに大腸がんの手術件数は当院が全国トップと、多くの経験を積んでおります。最後に、国立がん研究センターでは「がんを防ぐための新12か条」を提唱しています。たばこを吸わない、お酒はほどほどに、塩辛い食品を控えめに。適度に運動など、健康的なことばかりです。がん予防は、決して特別なことではありません。気軽にできるものばかりです。がんは今や2人に1人がかかる時代です。誰しもが罹(り)患する可能性があるという心積もりを持ち、日々の生活習慣に気を付けて、定期的に検診を受けるようにしましょう。

【事前登録申し込み方法】 問い合わせ：TEL 055(962)6520

①郵便番号・住所②氏名③生年月日(西暦)④年齢⑤性別⑥職業(学校名)⑦電話番号⑧FAX番号⑨メールアドレス⑩視聴方法(パソコン、スマホなど)を明記し、下記の静岡新聞社・静岡放送 東部総局事業部にお申し込みください。1回だけの受講も可。

<はがき> 〒410-8560 (住所不要) 静岡新聞社・静岡放送 東部総局事業部「静岡がんセンター公開講座」係

<FAX> 055-962-6752

<Eメール> toubugyoumu@shizuokaonline.com ※FAXとEメールは件名に「静岡がんセンター公開講座」と記してください。